

# 死産証書 (死胎検案書)

この死産証書(死胎検案書)は、我が国の死産統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

記入の注意

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により測定し、できるだけ正確に書いてください。  
夜の12時は、「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

(9)	死産児の男女別	① 男 2 女 3 不詳	母の氏名	LE THI THUY LINH		
	死産があったとき	令和5年	2年	11月	15日	頃 午前・午後 時 分
(10)	死産児の体重及び身長	体重	1,526	グラム	身長	41.5 センチメートル
(11)	胎児死亡の時期 (妊娠満22週以後の自然死産に限る)	1 分娩前      ② 分娩中      3 不明				
(12)	死産があったところ及びその種別	死産があったところの種別	1 病院    2 診療所    3 助産所    ④ 自宅    5 その他			
		死産があったところ(種別1~3)の施設の名称	熊本県葦北郡芦北町大字田浦 3309番地 番 号			
(13)	単胎・多胎の別	1 単胎      ② 多胎 (2子中第不詳子)      3 不詳				
(14)	死産の自然人工別 <small>◆胎児を出生させることを目的として人工的処置を加えたにもかかわらず死産した場合は「自然死産」とします</small>	① 自然死産 2 母体保護法による人工死産 3 母体保護法によらない人工死産 4 不明				
(15)	自然死産の原因若しくは理由又は人工死産の理由  <small>◆1の(ア)欄には直接原因又は理由を胎児の側か母の側のいずれかに分けて書き、さらにそれと因果関係のある原因又は理由があれば(イ)欄(ウ)欄と続けて、それぞれ胎児又は母の側に分けて書いてください ただし、胎児又は母の側のいずれか決めかねる場合は、母の側に書いてください ◆自然死産か人工死産か不明の場合は、自然死産の側に書いてください</small>	自然死産の場合		人工死産の場合		
		胎児の側	母の側	母体保護法による場合	1	疾患名
	ア 直接原因又は理由	不詳			母体側の疾患による	
	イ (ア)の原因				2	理由
	ウ (イ)の原因				その他	
	エ (ウ)の原因			母体保護法によらない場合	1	疾患名
	II 直接には死産に関係しないが、I欄の経過に影響を及ぼした陽病名等				母体側の疾患による	
				2	理由	
				その他		
(16)	胎児手術の有無	① 無    2 有 (部位及び主要所見)				
(17)	死胎解剖の有無	1 無    ② 有 (主要所見) 全体に充血 肺浮遊試験陰性				
(18)	1 医師 2 助産師	上記のとおり証明(検案)する 証明(検案)年月日 令和5年11月18日 本証明書(検案書)発行年月日 令和5年12月3日 〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1-1 熊本市立中央病院 産科 (病院、診療所若しくは助産所の名称及び所在地又は医師若しくは助産師の住所) 熊本大学大学院生命科学研究部産科学講座 (氏名) 西谷 陽子 電話(096)373-5124				

1欄及びII欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を中心に書いてください。

# 死産証書 (死胎検案書)

この死産証書(死胎検案書)は、我が国の死産統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

記入の注意

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により測定し、できるだけ正確に書いてください。  
夜の12時は、「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

(9) 死産児の男女別	① 男	母の氏名	LE THI THUY LINH		
	2 女	妊娠週数	満 8か月から9か月と 週 推定 日		
	3 不詳				
死産があったとき	令和 2年 11月 15日 頃 午前・午後 時 分				
(10) 死産児の体重及び身長	体重	身長	1,648 グラム 41.5 センチメートル		
(11) 胎児死亡の時期(妊娠満22週以後の自然死産に限る)	1 分娩前      ② 分娩中      3 不明				
(12) 死産があったところ及びその種別	死産があったところの種別	1 病院    2 診療所    3 助産所    ④ 自宅    5 その他			
	死産があったところ及びその種別	熊本市葦北郡葦北町大字田浦 3309 番 地 番 号			
	(死産があったところの種別~3) 施設の名称				
(13) 単胎・多胎の別	1 単胎      ② 多胎 ( 2 子中第 不詳 子)      3 不詳				
(14) 死産の自然人工別 ◆胎児を出生させることを目的として人工的処置を加えたにもかかわらず死産した場合は「自然死産」とします	① 自然死産 2 母体保護法による人工死産 3 母体保護法によらない人工死産 4 不明				
(15) 自然死産の原因若しくは理由又は人工死産の理由 ◆1の(ア)欄には直接原因又は理由を胎児の側か母の側のいずれかに分けて書き、さらにそれと因果関係のある原因又は理由があれば(イ)欄(ウ)欄と続けて、それぞれ胎児又は母の側に分けて書いてください。 ただし、胎児又は母の側のいずれか決めかねる場合は、母の側に書いてください。 ◆自然死産か人工死産か不明の場合は、自然死産の欄に書いてください。	自然死産の場合		人工死産の場合		
	ア 直接原因 又は理由	胎児の側	母の側	母体保護法による場合	1 疾患名
		イ (ア)の原因	不詳		2 理由
		ウ (イ)の原因			その他
	エ (ウ)の原因			母体保護法によらない場合	1 疾患名
直接には死産に関係しないが、1欄の経過に影響を及ぼした傷病名等			2 理由		
				その他	
(16) 胎児手術の有無	① 無    2 有 (部位及び主要所見)				
(17) 死胎解剖の有無	1 無    ③ 有 (主要所見) 全身に出血 肺浮腫 試験陰性				
(18) 1 医師 2 助産師	上記のとおり 証明 (検案) する		令和 2年 11月 18日		
	本 証明書 (検案書) 発行年月日		令和 2年 12月 3日		
(病院、診療所若しくは助産所の名称及び所在地又は医師若しくは助産師の住所)		〒860-8556 熊本市中央区本荘4丁目1-1 熊本大学大学院生命科学研究部医学講座 電話(096)373-5124 印			
(氏名)		西谷 陽子			

1欄及び2欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を中心に書いてください。